

# アメニティの機関紙

## 【委員長挨拶】

### 快適と幸福

山崎和彦(実践女子大学)

青年イエスは恐らく照れ屋であり、それゆえ民衆に向かい瞥え話をしたのであろう。筆者も照れ屋であるから、瞥え話をしよう。

晴れて生理人類士となったA君が浮かぬ顔をしているので、皮肉屋のB君が言った。君はアメニティ・スペシャリストだろう。快適専門家の当人が不快そうにしているよいか。A君応えて曰く、確かに僕は快適専門家だが、不快を知ってこそ快も分かるというものだ。だから不快そうにしていたところで何ら不思議はない。

B君の挑発は続く。そもそも快不快は相対的なものだろう。砂漠にありては泥水も甘露なり。つまり快不快は揺れ動くものであって正体が定まっていないからには、快適専門家なんぞいてもいなくてもよい、ということになりはしないかね。A君応えて曰く、世に全人類快というものがある、生理人類士はこれを担当するのだ。こうした知見があつてこそ国連の会議での空調諸元も決まるというわけだ。もっとも仔細は知らんけどね。

B君は遠く白雲を眺めつぶやいた。仏教では四苦八苦という。辛いと分かっているなぜ生き続けるのか。僕のDNAがもっとよければ、豊かな資産があれば、快適かつ幸せに暮らせるはずだが。A君曰く、快不快と幸不幸は別だ。君の平均皮膚温が33なら温熱的に快といえるが、心痛については管轄外だ。まあ耐え続ければ、やがて脳内快樂物質が分泌されるだろうよ。ともあれ酒は合法的ドラッグだ。これからでかけるとするか。

そろそろ紙幅が尽きる。かくして照れつつ稿を終える。

生理人類士の皆様へ。これからの大いなる御活躍を願っております。

## 【指定校責任者挨拶・その1】

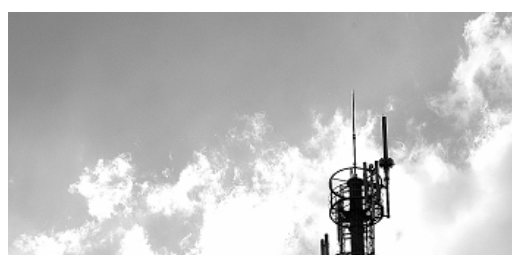
### 「人間環境デザイン学科」の紹介

田原靖彦(東北文化学園大学)

東北文化学園大学は、医療福祉、総合政策、科学技術の3学部よりなる地方大学として1999年4月に仙台市に開学しました。工学系の科学技術学部は、現在、「コンピュータサイエンス学科」と「住環境デザイン学科」の2学科よりなりますが、2008年度より、それぞれ「知能情報システム学科」及び「人間環境デザイン学科」に名称変更するとともに、教育内容を一新して新たな歩みを開始します。

我々の所属する「人間環境デザイン学科」は、従来の学科の流れをくむ「住環境デザインコース」と新たに加わった「健康環境コーディネートコース」の2コースからなり、本学の特徴である医療系との連携をより深めた教育体系となります。中でも、生理人類学会と馴染みの深い「健康環境コーディネートコース」では、「健康住宅」と「福祉住環境」の2つの分野を軸に、医療系の基礎知識をベースに、環境創り・建築設計の実務能力をもつ特徴ある人材の養成を目指します。生理人類学会からはこうした教育体系を評価頂き、既に、生理人類士認定制度における指定校の認定を頂いております。

当学科は、従来、主として建築系企業に卒業生を送り出していましたが、新体制の卒業生には、健康産業・アメニティ産業などへの道も切り開いていきたいと考えています。



## 【指定校責任者挨拶・その2】

### 指定校認定を受けて

前田亜紀子（長野県短期大学）

学生にとって、資格を取得することは、就職活動や社会生活において有利に働きます。私の実体験でも、「生理人類士」という名称は先方の興味を引き、話題性に富むようです。

今年度、本学生活環境専攻が生理人類士の指定校認定を受け、受験生3名が初挑戦しました。指定校として、現在唯一の短期大学である本学の学生に、より幅広いチャンスを与えて頂き誠にありがとうございます。

合格実績のある指定校の先生方から様子についてお伺いし、テキストを片手に試験対策講座を設けました。授業で扱う用語は見受けられるものの範囲は広く、そこで、日常の生理的な感覚や生活環境における身近な事例を取り上げ、解説しました。

学生は週を重ねる毎に生理人類学への理解を深めた様子で、新聞記事や自分が感じた出来事や疑問と結びつけ、話題を提供してくるようになりました。

生理人類士の資格取得後は、培った知識を総動員して、地域やオフィス、家庭の中でおおいに活かしてくれるものと期待しています。

## 【2007年度生理人類士の声・準1級】

### コモンスペースについて研究中

梶川真美（武蔵野大学大学院人間社会専攻1年）

生理人類学は私たちの身体機能についてと、それに影響を及ぼす私たちの生活環境との関係にふれながら理解を深めていこうという学問です。私は、多くの人たちが共有で使用するスペースである「コモンスペース」について研究しています。このコモンスペースと人間の身体機能との関係は一見どこがどのように繋がっているのかわからないと思います。例えば、市民会館などの空間を想像していただきたいのですが、市民会館という空間は入り口からホール、廊下、トイレといった施設のあらゆる部分に利用者の安全や使いやすさ

を考慮した構造が用いられています。バリアフリー対策がその構造として有名です。これからの将来は、身体に何らかの障害を持つ人も持たない人と同様に共有スペースにおいて充実した時間を過ごせるように、その構造が設計・施行されるべきであると考えます。そのための勉強としても生理人類学は、多く知識を提供してくれるので是非多くの人に知って頂きたいと思います。

## 【2007年度生理人類士の声・2級】

### 資格試験を受ける意義

宮本有希子（武蔵野大学人間関係学部3年）

「生理人類学」に対して私は以前、より科学的で技術的な観点から人類の身体機能を学ぶ分野だと思っていました。しかし、私が所属していたゼミを中心に、生理人類に関係する授業などから「生理人類学」はあらゆるヒトが暮らしやすい環境を研究する学問であると知りました。それは授業などで学ぶ内容が、私たちの日常生活に大変深く関係していることが多いからだと思います。また、自分自身の生活と関連づけることができるからこそ、興味深く勉強することができました。

今回の資格試験の勉強においても、ただ単語として覚えるのではなく、自分の生活に役立てられる知識として吸収するという姿勢で取り組むことができました。特に私は「ストレス」や「疲労」についての勉強が大変参考になったと考えています。今後は卒業論文を書き上げるために必要な、より専門的な知識をみにつけることと、自分の生活だけではなく、社会に役だてることができるようなより深い知識を身につけたいと思っています。

### 卒業論文のテーマを考える

妹尾佳奈（武蔵野大学人間関係学部3年）

ゼミに入るまで正直いうと、生理人類学という学問があることすら知りませんでした。先生の薦めもあり、何も解らないままとりあえず受けてみようかなという軽い気持ちで、受験を決めました。しかし、資格取得の為に必要な教科を履修していくと、だんだん生理人類学の面白さに惹きつけら

れていきました。

現在、卒業論文のテーマを「肩こり」について調べようかと検討中です。私がこのテーマを掲げた理由は、私は肩こりが酷いのですが、この酷さには何か理由があるのだろうかという単純な気持ちからです。しかし生理人類学について学んでいなければ、このような考え方をすることはなかったと思います。私が在籍している学部は主に心理学を扱います。きっとこの学問を学んでいなければ、心理的側面からしか考えていなかったと思います。この資格を取得するにあたって、心理学的側面からだけでなく、生理的側面からも物事について考えられるようになりました。今後さらに視野を広げ、論文を書くことだけを目標とするのではなく、日常生活に様々な興味を持ち、役立てていきたいと思っています。

### **アメニティスペシャリスト認定試験を終えて**

本郷絵美子（福岡女学院大学3年）

「生理人類学はどう役立っているのか」1年から生理人類学のアメニティ指定教科の講義を受講してきましたが、このことについて自分の中で疑問に思い続けていました。3年のゼミで生理人類学関係の論文を毎週課題に選び、調べて発表するというのをやってきました。ある日、肌着による触刺激が、成長や健康の維持など人間の生理に及ぼす影響について研究されているという綿貴先生が書かれている論文の紹介がありました。これらの発表や論文を通して、生理人類学が人々や生活環境に貢献する学問であることを知り、きちんと勉強したいと考えましたので、今回アメニティスペシャリスト(生理人類士2級)の認定試験を受験しました。

勉強して感じたことは生理人類学は大変幅の広い学問であるということ、しかしその全てが人や環境に通じており、自分自身にも大変身近な学問であったということです。

これからも勉強を続け、理解を深めていきたいと考えております。

### **暮らしに活かしたい**

佐藤由貴（長野県短期大学2年）

生理人類学というものがどのようなものなのか、今回検定を受けるまで詳しく知りませんでした。しかし、いざ検定を受けるとなると本を開いてみると、私たち自身や生活にとっても身近で重要なものだとわかりました。また、生理人類学は私たちが快適に健康に暮らすにはどうしたら良いか考える学問であり、今、私が短大で学んでいるものを総合した学問であることに気付きました。そのことで、授業と試験勉強がリンクし、どちらも意欲的に取り組む事が出来ました。

生理人類学も大学で学んでいる学問も、どのように文化や生体機能が変化してきたのか、生態の仕組みや周辺環境の影響を知り、これからの私たちの生活を考えるというとても大切なものです。人間にとって快適な環境が増えた現在、同時に本来人間が持っている機能に変化が起きていると思います。今回の学習をこれで終わりとせず、どのような些細なことであっても、これからの暮らしに活かして行きたいと思っています。

### **自然との共存の視点から**

鈴木香苗（実践女子大学生活科学部3年）

私は、大学に入るまで生理人類学のことを知りませんでした。授業で生理学や生理人類学の講義をいくつか受けて行くうちに生理人類学について徐々に興味が生じてきて、この生理人類士2級を受けようと思ったのです。また、卒業論文制作や就職活動の時にも役立といった先輩の薦めもありました。

今回の資格試験を機に、再び生理人類学について学ぶことになり、生理人類学とは人としての根本を軸に、新しい発見をしていく学問であると思いました。私たちの生活は日々快適になってきています。快適な事は良い部分もあるけれど悪い部分もあります。例えば、冷暖房完備の生活によって体温調節が上手く機能しない人が増えてきています。体温調節が上手く機能しないと体に色々な悪影響もでてきますし体調不良にもなります。こ

れらを改善させるためにも自然との共存を念頭において人の生体・機能をもう一度見直していく必要があると思います。

私は、このような問題を生理人類学的視点から研究していきたいと思っています。

### 【2006年度各資格取得者氏名】

注) 下線は資格認定委員会が表彰する各指定校成績優秀者(2008年3月に卒業・修了の者が対象)

< 1 級 > 受験者なし

< 準 1 級 > 青暢子 橋本倫代 伊東弥生  
横山多美子 許海波 深澤瑞紀 蔡楠  
中崎恭子 柴田美智代 末安弘美 渡邊直子  
山田理恵子 (計12名)

< 2 級 > 霍田麻美 西本美雪 中島千尋

高木奈緒 並木信之介 高山恵 青山光  
奥森麻美 館美紗子 今奈良涼子  
梅宮まりえ 長澤絵里 荒谷恵理 田口心平  
佐藤昭雅 臼井真佑美 杉山聡美 古張諭  
田辺雅美 相田美佐子 林田博和 小濱素子  
秋山仁美 竹内侑子 鈴木澄江 山本直子  
真壁和子 猪飼知恵 日高優子 石原恵子  
赤津世津子 富田月子 志道不二子  
浅見早苗 石丸裕子 西元与志子 村松節子  
小笠原かがり 小池三起子 松野さおり  
前田華代 山本喜則 伊澤勝典 小澤佐智子  
野村美紀 玉地亜衣 清水弘美 中村智美  
斉藤記久子 池末智子 熊田麻子 池田紘子  
石川優生子 小川はる賀 板橋沙織  
井上佑紀 小此木綾香 加藤亜実 新岡里美  
高橋幸恵 田中博子 長谷川理沙 福島由依  
柳沼真実 八塩その子 山川恵里 松村飛鳥  
稲留麻衣 岩村麻矢 大津紀恵 大塚彩加  
大倉祥 大村祥子 神崎美保 黄檗麻美  
佐藤みさき 柴原瞳 高田麻衣 田中菜穂子  
堤真梨 寺内尚子 橋本容子 林真梨奈  
原田彩菜 福井三穂 光尾彩 三苫かおり  
本松尚子 山口真央 山崎真季 山下裕子  
湯本美雪 与座由花 (計93名)

### 【2007年度各資格取得者氏名】

< 1 級 > 受験者なし

< 準 1 級 > 豊岡千春 斉藤記久子 石丸裕子  
小池三起子 山本直子 中井麻里 梶川真美  
関谷由美子 山田瑞生 岩隈彩子 大村祥子  
林真梨奈 (計12名)

< 2 級 > 堀尾雅子 中原千鶴子 遠藤豊  
藤井亜也 佐藤理那 江藤早苗 塩見優子  
新佐絵吏 高松麻子 西村志保 夏目久美  
山本百合女 友納昭恵 田邊恵美 相澤雅美  
南幸恵 橋本直人 大槻美奈子 草深香織  
森脇彩子 武井花菜 小阪一葉 上山知花  
伊藤奈央 竹村みどり 余寒蕾 李香奉 林桃子  
妹尾佳奈 三品美来 五十嵐千章 戸谷香織  
青柳まゆり 野本千晴 橋本懐子 笠井加奈恵  
武藤慧 宮本有希子 吉野香織 神林恵美加  
長島友行 篠田真弓 小嶋拓人 波田野聡子  
田代翠 鳥越美帆 阿部香保里 門脇幸代  
酒井千尋 鈴木亜純 鈴木香苗 高橋久乃  
中村友美 三浦真希 川越美幸 平田歩  
本郷絵美子 今村真美 佐藤由貴 油井美紀  
若島明菜 (計61名)

### 【2008年度資格認定ポスター】

姚大斌氏(神戸芸術工科大学 大学院総合デザ  
イン専攻1年)がデザインを担当しました。

### 【2008年度試験日程】

1) 受験申込み期間

10月1日(水)~10月10日(金)

2) 準1級、2級試験: 11月29日(土)

3) 1級試験: 11月30日(日)

#### < 問合せ先 >

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19  
(株)国際文献印刷社内 日本生理人類学会  
生理人類士認定委員会事務局  
電話 03-5389-6218 FAX 03-3368-2822  
Eメール jspa-post@bunken.co.jp  
学会ホームページ <http://www.jspa.net/>